

第五次小千谷市総合計画の目標に係る検証・評価

1 検証・評価の考え方

①個別指標の達成率に応じて、それぞれ◎～×の評価を判定します。

個別指標の評価は「進捗状況一覧表（令和 7 年度分）」に表示しています。

評価	評価判定方法
◎	達成率 100%以上
○	達成率 80 以上～100%未満
△	達成率 50 以上～80%未満
×	達成率 50%未満

※計画期間中に事業が終了した指標項目や、調査を実施していない等の理由でデータがない指標項目は「-」と記載し、基本目標の評価には含めないこととする。

②個別指標の◎～×を得点化（◎＝4点，○＝3点，△＝2点，×＝1点）します。

基本目標及び基本方針ごとに達成率 100%（全ての項目が◎）に対する得点率を算出し、その数値から以下のとおり A～E の評価を判定します。

評価	進捗内容	得点率
A	達成	90%以上
B	概ね達成	80%以上～90%未満
C	一部達成	70%以上～80%未満
D	やや不十分	60%以上～70%未満
E	不十分	60%未満

2 基本目標及び基本方針ごとの評価

1に記載した評価方法を用いて、基本目標及び基本方針ごとの評価を行い、以下に結果を示しました。全体を通して、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や人口減少などに伴う影響が見られ、基準値（令和元年度）を下回った目標値未達成の指標が148項目中36項目ありました。

第六次小千谷市総合計画や各個別計画に引き継ぎ、今後も推進していく事業については、各進捗管理シートに方針を記載しています。

	評価	得点率	得点 / 満点		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数				
			得点	満点		◎	○	△	×	-
基本目標 1	B	85.9	79	92	23	13	7	3	0	2
1 学校教育の充実	B	85.4	41	48	12	5	7	0	0	2
2 生涯学習の推進	B	85.7	24	28	7	5	0	2	0	0
3 文化の振興	A	100.0	8	8	2	2	0	0	0	0
4 スポーツの振興	C	75.0	6	8	2	1	0	1	0	0

「3 文化の振興」は目標値を上回る評価となりました。例年の事業の拡充により、芸術文化振興事業参加者数や小千谷縮布製作技術習得人数の増加が見られました。一方で、「2 生涯学習の推進」では、分館事業の開催事業数及び参加人数が達成率 80%未満となりました。人手不足やコロナ禍の影響等により活動が縮小する分館が増加していることから、各分館の状況を踏まえた活動支援が必要です。

	評価	得点率	得点 / 満点		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数				
			得点	満点		◎	○	△	×	-
基本目標 2	C	71.7	66	92	23	7	6	10	0	0
1 子育て環境の充実	C	75.0	12	16	4	1	2	1	0	0
2 健康づくりの推進	D	69.6	39	56	14	4	3	7	0	0
3 医療体制の充実	A	100.0	4	4	1	1	0	0	0	0
4 支えあう福祉社会づくり	D	68.8	11	16	4	1	1	2	0	0

「3 医療体制の充実」において、診療所開設等費用の一部助成では、新規開設を含む3件の利用によりA評価となりました（※実際の新規開設は2件）。一方で、「2 健康づくりの推進」および「4 支えあう福祉社会づくり」ではD評価となりました。特に各種がん検診については、休日検診や山間地での胸部レントゲン単独検査の実施など検診体制の改善を図ったものの、受診率（特に胃がん・肺がん）が目標値を大きく下回りました。65歳未満の受診率低下が目立っており、今後も受診しやすい環境に向けた改善や工夫が必要です。また、生きがい対応型デイサービス事業（デイホーム）の会場数や延べ利用人数も低迷しており、役員不足による休止や、利用者の減少による活動終了が影響しています。

	評価	得点率		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数					
		得点	満点		◎	○	△	×	-	
基本目標 3	C	77.1	108	140	35	18	6	7	4	0
1 商工業の振興	C	77.8	28	36	9	5	1	2	1	0
2 農林業の振興	D	68.8	22	32	8	3	1	3	1	0
3 地域特性を活かした産業の育成	B	80.6	29	36	9	5	2	1	1	0
4 就業機会の確保	B	80.6	29	36	9	5	2	1	1	0

起業や開業の相談件数、ふるさと納税のリピーター数、錦鯉海外輸出金額など、一部の個別指標では目標値を大きく超える評価となりました。いずれも補助制度の見直しや積極的な周知等が要因と考えられます。しかし、×の評価となった指標も4項目あり、目標全体としては低調な評価となりました。特に、「2 農林業の振興」については、高齢化による離農のために重点園芸作物の栽培面積や栽培者数が減少したことや森林整備意向調査実施面積の伸び悩みが、低い評価の一因となっていることが考えられます。担い手育成支援の強化やスマート農業等の新しい技術を取り入れながら、人口減少を見据えた担い手の確保を進めていく必要があります。

	評価	得点率	得点 / 満点		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数				
			得点	満点		◎	○	△	×	-
基本目標 4	A	91.1	51	56	14	10	3	1	0	1
1 都市空間の創出	A	100.0	12	12	3	3	0	0	0	0
2 快適な生活基盤の整備	B	84.4	27	32	8	4	3	1	0	1
3 土地利用の推進	A	100.0	12	12	3	3	0	0	0	0

「1 都市空間の創出」及び「3 土地利用の推進」では、道路改良や生活交通路線の計画的な整備が進んだことにより、全ての個別指標が達成率 100%を超える評価となりました。個別指標で唯一評価が△となった準用河川整備箇所については、当初の整備想定箇所を見直し、優先順位を決めて整備を行ったことにより、目標値を下回る評価となりました。今後も町内要望と、整備区間を精査した上で、中長期的な視点に立った改修を実施していきます。

	評価	得点率	得点 / 満点		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数				
			得点	満点		◎	○	△	×	-
基本目標 6	C	75.0	48	64	16	8	2	4	2	5
1 交流・移住・定住の推進	D	69.2	36	52	13	5	2	4	2	3
2 市民協働と地域づくり	-	-	-	-	0	0	0	0	0	2
3 観光資源の活用と誘客推進	A	100.0	12	12	3	3	0	0	0	0

R6 年度のホント力。開館により、観光拠点施設全体の来館者数が大幅に増加したことで、基本方針3「観光資源の活用と誘客推進」の高い評価に結び付きました。一方で、「1 交流・移住・定住の推進」および「2 市民協働と地域づくり」の評価が低くなりました。この要因としては「市民の家」の日帰りにおける年間利用件数や利用者数が大幅に減少していますが、その背景には、コロナ禍の影響やキャンプサイトの有料化などが考えられます。また、「3 観光資源の活用と誘客推進」では、既存の地域づくり支援団体が活動休止となった後、新たな中間支援組織の設立に至らなかったため、支援件数や相談件数が低迷しました。なお、「中間組織に対して相談を行った市民団体数」の実績には、行政が直接相談に対応した件数を計上しています。

	評価	得点率		個別指標数 (-を除く)	個別指標の評価個数					
		得点 / 満点			◎	○	△	×	-	
計画推進のために	C	75.0	6	8	2	1	0	1	0	0
本市の各種審議会などにおける女性委員の割合が低迷したため、C評価となりました。男女共同参画社会の推進のため、市内企業の職場環境整備がこれからも欠かせません。効率的な行政運営を進めるため、今後も引き続き行政改革や広域連携等に取り組む必要があります。										